

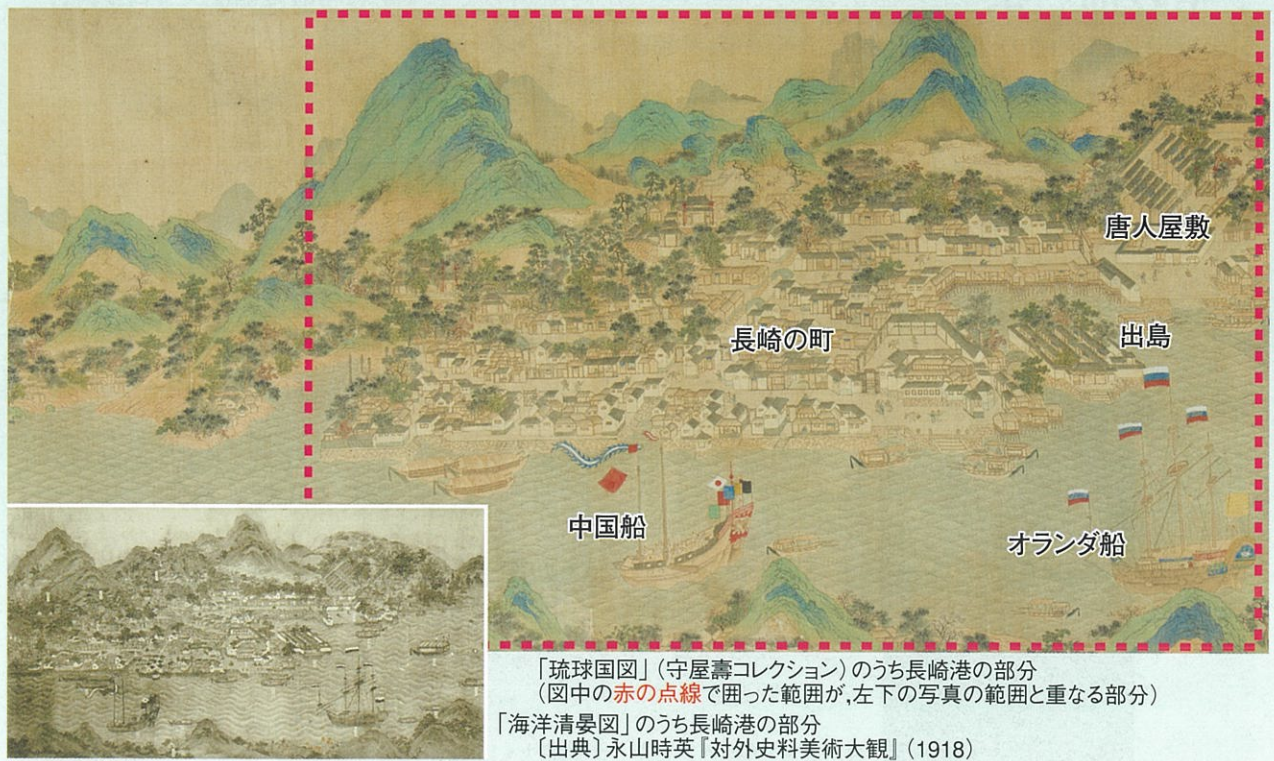
**ふくやま** **草戸千軒ミュージアム**  
**ニュース**  
 ~ 第128号 ~  
 広島県立歴史博物館




HIROSHIMA PREFECTURAL MUSEUM OF HISTORY

**速報!**

1700年頃の長崎を描く絵巻物  
 「琉球国図」(守屋壽コレクション)が、  
 中国・清朝の御物<sup>びよ びつ</sup>と伝わる ※御物: 皇帝の所蔵品  
 関東大震災で焼失した資料とそっくりなことが判明!



上海と長崎,そしてその間の航路を描いた絵巻物「海洋清晏図」<sup>かいようせいあんず</sup>は,清朝御物であったと伝わる貴重な資料でした。清朝が滅亡した辛亥革命(1911年)後の混乱で日本にもたらされ,東京帝国大学図書館(今の東京大学図書館)の所蔵となりました。「海洋清晏図」は,江戸時代が始まって100年ほど経った頃の日本と中国の貿易の様子を描いた中国側の一級絵画資料として,当時,学界でも注目されていた資料のようです。また,長崎の町を描いた資料としても,古いものの一つでした。

しかし,大正12(1923)年9月1日に発生した関東大震災で焼失してしまい,現在は大正時代に書籍に掲載された白黒の写真で確認することしかできません。

ところが,台湾の日中史研究者である劉序楓氏<sup>りゅうじょふう</sup>らの調査によって,守屋壽コレクションの「琉球国図」に描かれた内容が「海洋清晏図」とほとんど同じであることが判明しました。「琉球国図」は,製作の時期や目的などが不明ですが,98年前の震災で失われた,近世の日中交流史を物語る資料を補う貴重な資料であると言えるでしょう。この「琉球国図」を秋の企画展で公開します。この機会に是非御覧ください。

展示の内容は次の頁へ ▶▶

秋の企画展 守屋壽コレクション受贈記念

# 「京・江戸・長崎～近世・海の旅と憧れのまち～」

令和3年10月1日|金| ▶11月23日|火・祝|

昨年10月に寄贈された日本屈指の古地図コレクション「守屋壽コレクション」の4回目の展示会で、今回のテーマは「江戸時代の旅と憧れの都市」です。

江戸時代は、現代のように交通機関も発達しておらず、また当時の社会では人々は自由に旅行することができませんでした。その一方で、江戸時代は多くの人々が「娯楽の旅」に出かけた日本史上初めての時代でした。

コロナ禍で旅行が困難な昨今ですが、この機会に本展示会で江戸時代の人気スポットを巡ってみてはいかがでしょうか？

## 守屋壽コレクションとは

福山市出身の守屋壽氏が30年以上かけて蒐集した、国内外の古地図や、江戸時代の日本と諸外国との交流を示す資料群です。室町時代の日本地図「日本扶桑国之図」や、徳川吉宗が製作を命じた「享保の日本図」など、学術的にも貴重な資料が多数含まれている一大コレクション。

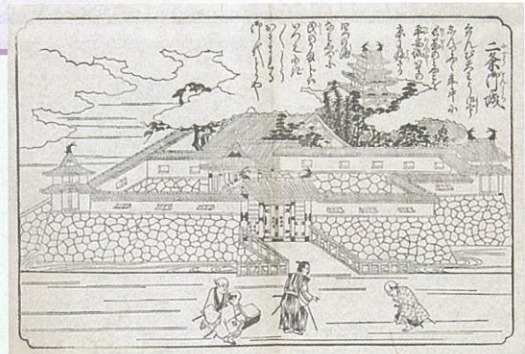
寄託されていた1,226点に、新たに124点を加えた1,350点が令和2年10月に当館に寄贈されました。今回の展示会は、追加の資料を中心に構成しています。

## 千年の都 京

平安時代以来、都が置かれた京は、多くの由緒ある寺社や祭など名所・名物が多く、今でも多くの人々を魅了しています。

今は姿を消した二条城の天守閣や、豊臣氏建立の方広寺なども当時は京の名所として、多くの絵画資料に残されています。

また、多くの宗派の本山が所在する京は、娯楽ではなく、信仰の対象として人々の憧れを集めました。



二条城「宝永花洛細見図」(宝永元年〔1704〕)



## 百万人都市 江戸

江戸幕府開府以来、「将軍のお膝元」として政治の中心地であった江戸は、18世紀には、人口が100万人を超え、当時世界最大規模の都市でした。

巨大な橋や大名屋敷などの建造物や広大な埋立て地などの土木事業、大勢の人々で賑わう町の様子や豪華な祭の様子は、浮世絵などでも紹介され、地方に住む人々の憧れの地となりました。

歌川広重「名所江戸百景 両国花火」(安政5年〔1858〕)

## 異国情緒の町 長崎

江戸時代の長崎は対外貿易の主要な窓口で、オランダ人や中国人が滞在していました。長崎は、医学や天文学など当時の先進的な学問が日本に伝わる最前線の町でした。

こうした学問を学びに全国から多くの医者や学者が訪れ、長崎版画などで紹介された異国情緒漂う町の様子は、江戸時代の多くの人々を惹きつけました。

川原慶賀「長崎港図」(江戸時代〔19世紀前半〕)



## 展示会の見どころ紹介

# 初公開! 江戸後期の大型鳥瞰図「江戸之図」



「江戸之図」(部分) 紙本淡彩 江戸時代後期(文政10年〔1827〕頃)

タテ1m,ヨコ4.2mという大型の江戸の鳥瞰図です。

江戸城を中心として江戸の町を東(海側)上空から眺めたように描かれています。

地図には、大名や旗本などの名前が屋敷に書かれていたり、有名なお寺や神社、桜の名所、歌舞伎の芝居小屋などが記されています。製作年や作者などの情報は資料中に記されていませんが、調べていくといくつかの興味深い事柄が判明しました。

この絵図は、文政10年(1827)頃に、九州の熊本藩が作成したものです。おそらく、江戸詰めの熊本藩士たちが、巨大都市「江戸」で勤め暮らしていくためのガイド用の絵図として作られたのでしょう。

さらに興味深いことに、この鳥瞰図は、当時江戸で刊行されていた切絵図(町の分割地図)「安見御江戸絵図」をベースとして立体的に仕立てられたことも分かりました。

平面の情報である地図から、このような鳥瞰図が作られていたことは驚きです。

## 開催概要

- ◆ 会 期 / 令和3年10月1日(金)～11月23日(火・祝)〔休館日 月曜日〕
- ◆ 開館時間 / 午前9時～午後5時(入館は午後4時30分まで)。初日は午前10時開館。
- ◆ 会 場 / ふくやま草戸千軒ミュージアム(広島県立歴史博物館)
- ◆ 入 館 料 / 一般1,000円(800円)、高校生・大学生500円(400円)、小学生・中学生350円(280円)  
※( )は20名以上の団体 ※前売り券はありません。  
※文化の日(11月3日)は無料。ひろしま教育ウィーク(11月1日～7日)は小・中・高校生は無料
- ◆ 主 催 / ふくやま草戸千軒ミュージアム(広島県立歴史博物館)
- ◆ 共 催 / 中国新聞備後本社
- ◆ 後 援 / 福山市、福山市教育委員会、福山商工会議所、広島経済同友会福山支部、一般社団法人福山青年会議所、一般社団法人広島県観光連盟、NHK広島放送局、中国放送、広島テレビ、広島ホームテレビ、テレビ新広島、広島エフエム放送、エフエムふくやま、尾道エフエム放送

●新型コロナウイルス感染症の今後の状況により、予定が変更になる場合があります。

## イベント情報

### 開催記念講演会(聴講無料) 会場:当館講堂

※オンライン開催を含め予定を変更する場合があります。  
詳細はホームページ等でお知らせしますので、御確認ください。

#### 第1回 日時:10月16日(土)午後2時～3時30分

演 題:守屋壽コレクション「琉球国図」と17-18世紀の日中関係  
講 師:劉 序楓(台湾中央研究院人文社会科学研究中心研究員)

#### 第2回 日時:11月20日(土)午後2時～3時30分

演 題:守屋壽コレクション「江戸之図」と江戸名所めぐり  
講 師:久下 実(当館主任学芸員)

### 展示解説会(聴講無料)

① 10月3日(日), ② 10月17日(日)

③ 11月14日(日)

時 間:午後1時30分～2時30分

会 場:当館講堂

### 体験コーナー「京・江戸・長崎の世界を楽しもう」

日 時:展示期間中,随時

会 場:研修室

# 10・11月の近世文化展示室の展示から

当館2階の常設展「近世文化展示室」では、重要文化財菅茶山関係資料と守屋壽コレクションの魅力を、2か月に一度テーマを変えながら紹介しています。

今回は、1～3ページで紹介した秋の企画展「京・江戸・長崎～近世・海の旅と憧れのまち～」とタイアップして、鞆の浦をテーマにした展示を10月1日(金)から11月28日(日)まで開催しています。

鞆の浦は、古来から潮待ちの港として栄え、江戸時代には、朝鮮通信使や琉球使節が江戸へ向かう途中に立ち寄っています。

写真1は、琉球使節が音楽や踊りをしている様子を描いた図です。琉球使節の外交にかかせないものが芸能でした。右端にいる男性が楽師、その他は若い女性のように見えますが、楽童子といって15～18歳の男性です。使節の中で、この楽童子が花形でした。元服前の男性が豪華な衣装を身につけ、踊りや音楽を



写真1 「琉球王宮舞楽図」重要文化財菅茶山関係資料・当館蔵

奏でています。

この図は、江戸時代後期の儒学者・漢詩人であった菅茶山のもとに残されていました。江戸時代後期に知識人たちが琉球の芸能・文化に対して興味関心が高かったことを示しています。



写真2 「諸国六十八景備後鞆津」(二代広重)文久2年(1862)・当館蔵

守屋壽コレクションの「近世の港町と鞆の浦」と題した展示会の見どころの一つは、江戸時代前期頃の瀬戸内海航路を描いた長い巻物の絵図を一挙に御覧いただけることです。もちろん、鞆の浦も描かれています。

また、写真2のような江戸時代に備後国の名所を紹介した浮世絵のほか、文学作品や幕末の歴史の舞台に登場した港町鞆の浦についても紹介します。

「東海道中膝栗毛」の作者十返舎一九が、その続編として世に出した「宮島参詣 続膝栗毛」では、弥次さん喜多さんが宮島に向かう途中、鞆の浦に立ち寄る場面があり、瀬戸内海航路の寄港地としてにぎわった鞆の面影を今に伝えています。

江戸時代の港町は、物流の中継点として物資の流通上、とても大切な役割を果たしていました。一方で、この時代には多くの人が船を使って京や大坂、長崎、宮島、金毘羅などへ旅に出かけました。このような旅を支えたのも鞆の浦のような港町でした。

この機会に、1階企画展示室の展示と合わせて、江戸時代の旅や鞆の浦の魅力を、近世文化展示室でもお楽しみください。



写真3 「大坂より長崎まで船路名所」(部分)江戸時代前期・当館蔵

● ● はくぶつかんこぼれ話 27 ● ●

縄文～古墳時代の玉類をみる①  
— 孔の開け方 —

古代の人々が主にアクセサリーとして用いていた、勾玉や管玉などの玉類。教科書の写真や博物館等で目にしたことがあると思います。古くは旧石器時代から存在していたと考えられ、縄文時代、弥生時代と続き、古墳時代には、それ以前を上回る最も多い種類が生産・流通していました。

今回は、玉類に孔を開ける方法や、開け方による作られた時期の違いの見分け方を紹介します。

まずは、玉類に孔を開けるための道具についてです。現代に見られるような機械もない時代に、小さな玉類にどのようにして孔を開けていたのか、疑問に思われる方も多いと思います。孔を開ける際に使用された針は、大きく分けて2種類あります。旧石器時代から弥生時代中期頃まで使われていたのは、石で作られた針です。玉類の素材となる石材は、非常に硬質なため、針についても安山岩やメノウといった硬い石で作られていました。これらの石材を割って、磨くことで直径1～2mm前後の針を作り上げていたのです。石針を使って孔が開けられた場合、孔の内側に螺旋状の痕跡が見られることが特徴です。

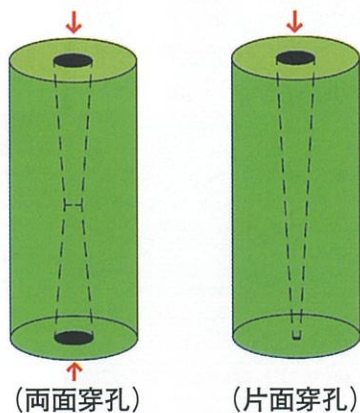
そして、弥生時代中期以降に使用されるようになったのが、鉄でできた針です。当時の日本には、鉄を生産する技術がなく、朝鮮半島など大陸から鉄素材がもたらされたことを契機に、玉を作る道具にも導入されました。鉄針で開けられた孔の内側は、石針で開けられたものとは異なり、比較的つつるしています。

次に、孔の開け方について紹介します。道具の変化と同様に、孔の開け方にも違いがあり、これによっておおよその生産時期を推定することができます。

旧石器時代から古墳時代前期までの長い期間、玉の孔は両側から開けられていました。これは、始めに玉の中央部分まで孔を開けた上で、玉を反転し、反対側からも孔を開けることで貫通させる方法です。主に石針が用いられていた時代の穿孔方法で、玉の両端の孔の直径は同じくらいになります。

しかし、この穿孔方法に変化があらわれるのが、古墳時代前期の終わり頃です。この時期になると、孔を両側からではなく、片側から開けるようになります。これは、玉を反転することなく、一度に貫通させる方法で、鉄針が玉を作る道具にも広く普及した時代に用いられるようになった新たな技術でした。写真3にみられるように、孔の直径は玉の両端で異なることが特徴です。

玉類の「孔」という一部分を見ても、作られた時代・時期によって、道具や開け方に違いがあることがお分かりいただけたでしょうか。孔の方向については、比較的鑑賞しやすいため、博物館で実物の玉類を御覧になる際は、是非こうした点にも注目してみてください。(学芸員 岸本晴菜)



穿孔方法模式図



写真1

写真1 両面穿孔の例  
ヒスイ製勾玉(石鎚山第1号古墳〔福山市〕出土)・当館蔵

写真2・3 片面穿孔の例  
写真2:水晶製平玉,写真3:碧玉製管玉(両方とも古市古墳〔東広島市〕出土)・当館蔵

写真2

写真3



# 頼山陽史跡資料館

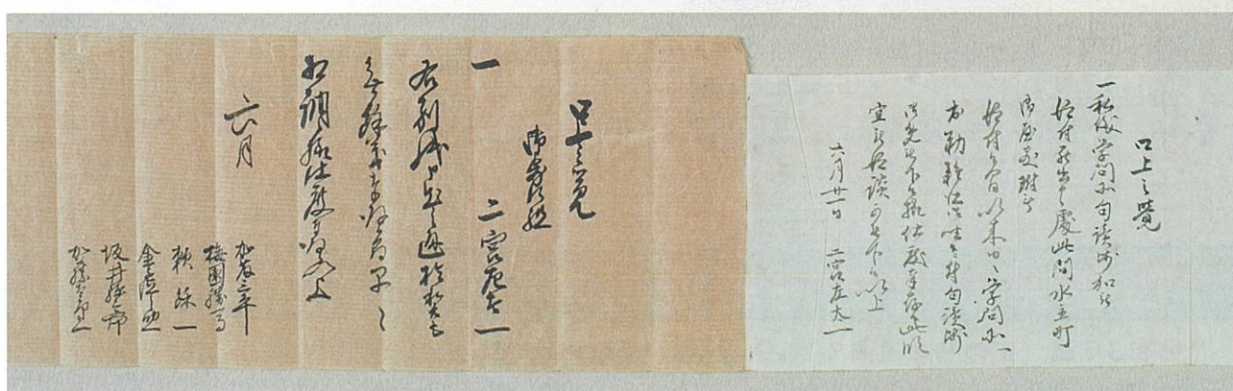
企画展「ひろしま紙ものがたり」  
 令和3年 10月21日(木)～12月12日(日)

企画展「ひろしま紙ものがたり」は、広島藩の紙の生産と流通について取り上げる展覧会です。広島藩では、山県郡や佐伯郡を中心にほぼ全領域で紙が漉かれ、専売制のもとで生産される紙の種類は二十以上に及びました。紙の生産量と種類は藩が決定して各村の紙漉人にノルマとして割り当てられ、漉き上がった紙は検査のうえ藩の公定価格で買い上げられ、御紙蔵に収納されました。藩内で使用・販売する分を除いた紙は、大坂へ廻漕された後、大坂の蔵元によって売りさばかれ、広島藩の紙は、藩を代表する産物の一つとして広く認知されていました。

また広島藩家老の上田家では、藩から独自の紙の専売制が認められ、上田家知行地の佐伯郡では、藩と上田家に納める紙が別々に漉かれるなど、特異な地位を占めていました。本展覧会では、上田家文書(三原市教育委員会蔵)や和田家文書(広島県立文書館蔵)など、これまであまり展示に供されたことがない上田家給知に係る史料を多く紹介する予定で、展覧会の見どころの一つとなっています。

財政面から論じられることの多い紙の専売制は、藩の文書行政にも大きな影響を与えました。広島藩では、享保6年(1721)から藩の公用紙を淡茜色に着色し、一般の紙との差別化が図られますが、この公用紙を色で可視化する行為は、紙の専売制を前提として初めて成立するものです。頼山陽史跡資料館では、平成29年度から令和2年度にかけて、文化庁の国庫補助事業として広島頼家関係資料(杉ノ木資料)の悉皆調査を実施しました。本展覧会では、その過程で得られた藩の公用紙に係る知見についても併せて紹介します。

広島藩の紙産業と現在に息づく伝統の営みを、会場では是非御体感ください。



口上之覚(杉ノ木資料, 頼山陽史跡資料館蔵)

右は、学問所の句読師加(学問所の生徒に素読を教える役職の一つ)、二宮左太一が水主町御屋敷付きとなり、学問所への出仕が困難となったことから提出した辞職願。左は、学問所教授6名がそれを受理する旨を記したもの。右では半紙、左では色諸口紙(諸口紙を淡茜色に染めた藩の公用紙)が使用されており、色により公用紙の判別が容易になるよう工夫されています。

## 頼山陽史跡資料館

- 会 場 / 広島市中区袋町5-15 TEL.082-298-5051
- 時 間 / 9:30～17:00(入館は16:30まで)
- 休 館 日 / 月曜日(祝日の場合は翌平日が休館)
- 入 館 料 / 一般300円(240円)、高校・大学生220円(180円)、小中学生150円(120円)  
 ※ ( )は団体20名以上の料金



RAI SAN Y O U

## 今年度の講演会・イベントについて

開催に当たり、次のとおり新型コロナウイルス感染防止の措置を行いますので、御理解の上、御協力ください。

- 1 聴講人数は、講堂**100人**に制限します。
- 2 講演会終了後の質疑応答は行いません。
- 3 感染防止等のため、当日であっても**急遽中止する**場合があります。
- 4 入館の際は、**検温・連絡先の記入**を行っていただくほか、**マスクの着用**をお願いします。
- 5 その他についても、館に掲示している「御来館上のお願い」を遵守していただくほか、職員の指示に従ってください。
- 6 発熱のある場合、感染防止措置に御協力いただけない場合などは、聴講できません。

この措置は、当面の期間とします。期間中においても、「新型コロナウイルス感染拡大防止のための広島県の方針(対処方針)」に則り、**対応が急遽変更になる場合があります。**

講演会の聴講は無料です。なお、講演会の聴講のみで御来館された方は、美術館駐車場の1時間無料サービスを受けることができませんので御了承ください。(1時間無料サービスは、展示を御覧になった方が対象です。)

## 常設展示室(ミニ展示)のお知らせ

### 博物館実習生の展示実習

～ 9/30(木)

### 箏(こと)と福山

-当館所蔵品の紹介-

10/1(金)～ 12/2(木)



### 草戸千軒の鬼と仏

12/3(金)～ 1/30(日)

### 思い出のSL

2/5(土)～ 3/24(木)



## 広島県立歴史博物館友の会からのお知らせ

◇令和3年度 友の会の役員です。よろしくお願いします。

役職	氏名
顧問	植田 千佳穂
会長	神谷 和孝
副会長	村上 範 慥
理事	小林 暢 善
理事	篠原 芳 秀
理事	西別府 元 日

役職	氏名
理事	古瀬 清 秀
理事	八幡 浩 二
常務理事	佐藤 哲 義(当館館長)
監査	尾多賀 晴 悟
監査	桑田 直 美

## ふくやま草戸千軒ミュージアム(広島県立歴史博物館)ニュース 第128号

編集・発行

令和3年8月20日

〒720-0067



**ふくやま草戸千軒ミュージアム**  
(広島県立歴史博物館)  
HIROSHIMA PREFECTURAL MUSEUM OF HISTORY

広島県福山市西町二丁目4-1  
TEL(084)931-2513 FAX(084)931-2514  
URL : <https://www.pref.hiroshima.lg.jp/site/rekishih/>  
e-mailアドレス : [rhksoumu@pref.hiroshima.lg.jp](mailto:rhksoumu@pref.hiroshima.lg.jp)

